

大阪 医療崩壊に直面

写真は毎日 27 日朝刊「新型コロナウイルスの重症患者の手当てをする看護師=近畿大病院提供」。重症者増 加速度的と大きな見出し。記事を抜粋して紹介する。りんくう総合医療センターの倭正也感染症センター長は「搬送までに時間がかかっている。変異株の影響で重症化するスピードがこれまでの倍くらい速い印象がある。府内の病院では治療が後手後手に回り、命を落とす人もいる」と語る。



22 日までの 1 ヶ月間の死者数は、人口 100 万人あたりでみると大阪は 15.89 人で、東京の 14.58 人を上回った。大阪では重症者が急激に増えている。府によると、第 3 波の時は重症者が 171 人増えるのに約 3 ヶ月かかったが、第 4 波では 3 月 20 日の 55 人から 178 人増えるまでわずか 24 日間。増加スピードは、実に第 3 波の約 3 倍になる。これまで重症者は高齢者が中心と言われてきたが、中年層にも広がりを見せる。過去の統計データから、重症が増えると時間をおいて死者数も徐々に増えることが分かっている。今後の見通しについて、倭センター長は「新規感染者はピークアウトしそうだが、緊急事態宣言が解除される頃までは医療体制は逼迫し、多くの人亡くなる状態が続くだろう」と厳しい見方だ。

同紙 24 日 1 面は「大阪 医療崩壊に直面」と大きく報じた。大阪府の新型コロナウイルス対策本部の専門家会議座長として府にコロナ対策を助言してきた朝野和典・大阪健康安全基盤研究所理事長が、毎日新聞の単独インタビューに応じた。重症患者の数が重症病床数を上回る大阪の現状について「医療崩壊に直面している」と指摘した。3 度の「波」を乗り切った「成功体験」が過信につながり、変異株による感染急拡大などへの医療提供体制構築が十分にできなかったと説明した。

朝野氏は「新型コロナ以外の一般医療をも逼迫させている。新型コロナ以外にも失われる命が出ている可能性がある」と語った。海外で爆発的感染が確認されたが、国内では昨秋から今冬の「第 3 波」までは自治体が確保を見込んだコロナ用病床などでほぼしのぐことができた。朝野氏は「こうした『成功体験』が災いし、変異株の猛威に対応できなかった」と悔やむ。

大阪府新型コロナ対策本部の専門家会議座長の反省をこめた言葉は重いものがある。コロナ対策の責任者である吉村洋文知事からは、こんな反省こめた言葉を聴くことができない。昨日は「副首都推進本部会議」が開催され、「大阪都市計画局」新設などが協議された。医療が崩壊し、緊急事態宣言が発令されているなかで、不要不急の会議など中止すべきではないか。怒りを覚える。

(2021 年 4 月 28 日)